

タイトル: 新たな集いの場誕生「下町蚤の市」 ～蚤の市 地域をつなぐ 宝もの～

活動のアピールポイントを記入してください。

楽しみながら地域を元気にしたいとの女性ボランティアが集まり、神社で毎月第一日曜日に蚤の市を9月からスタート。自宅で使わずに眠っていたものを無償で地区民が提供し、それをお財布に優しいお値段で販売。売上金は地域コミュニティ事業にあてます。10月からは地元迫桜高校の農業科生徒が育てた野菜とお米、お花も並び、コロナ活動自粛の生徒の代わりに販売をします。歩いて行ける近場で買い物を楽しめる新たな集いの場には、隠れた支え合いが沢山。

① 該当の取組を実施する事業者等についてご記入ください。

② 取組の活動範囲を一つ選んで○をつけ、具体的な市町村名・地区名等を下にご記入ください。

名称 若柳下町蚤の市

住所:

担当者名:

1. 複数の市町村にまたがる広域
2. 市区町村内の概ね全域
3. 中学校区単位
4. 小学校区単位
5. 自治会単位

取組み開始年度 元号 令和2 年度 取組に関わっている職員および担い手の数 職員 人 担い手 7人

具体的な範囲

③ 主な活動範囲となっている市区町村のデータをご記入ください。

⑤ 各属性ごとの利用者の有無とその各年度ごとの人数をご記入ください。
(人数が不明確な場合はおおよその人数を「約」を付けてご記入ください)

地域包括支援センター設置数	直営	力所	利用者属性											
	委託	5 力所	平成30年度		令和元年度		令和2年度							
総人口	65,048	人	全体		人		人		7	人				
65歳以上高齢者人口 (総人口に対する割合)	26,527 40.8%	人 %	後期高齢者 (75歳以上)	利用者	有	無	利用者	有	無	利用者	有	無	1	人
75歳以上高齢者人口 (総人口に対する割合)	13,770 21.2%	人 %	男性高齢者	利用者	有	無	利用者	有	無	利用者	有	無	1	人
第7期1号保険料	月額 5,960	円	要介護高齢者	利用者	有	無	利用者	有	無	利用者	有	無		人
④ 取組推進にあたって、自治体からの補助金・助成金の支給を受けていますか(または受けていましたか)。該当する選択肢に○をつけてください。			認知症高齢者	利用者	有	無	利用者	有	無	利用者	有	無		人
現在受けている かつて受けていたが現在は受けていない <input checked="" type="radio"/> 受けたことがない			独居高齢者	利用者	有	無	利用者	有	無	利用者	有	無		人
現在受けている場合、事業全体額に占める割合 (約 割)			利用者(参加者)一人あたりのおおよその利用(参加)頻度				週			回				

⑥ 取組が行われた背景・経緯・目的についてご回答ください。

背景
過去賑わいを見せた商店街通り、現在はシャッター通りと空家も多く見受けられる。近くには、公共施設、学校もあり、宅地開発、賃貸住宅建設もあり、世帯数が増加傾向ではあるものの、世代交流の機会が無い状況である。

経緯
栗原市が推進している週一回の介護予防運動の活動をきっかけに、地区社会福祉協議会の女性リーダーが、身近な地区内で、楽しめ、気兼ねせず、気軽に行ける集いの場を作りたいと提案し令和2年秋より事業をスタートさせる。コロナ禍のこともあり、会場は神社境内 野外テントの下で、販売とお茶飲みの場となった。

目的・目標
市街地の空洞化地区。高齢世帯が多い中で、地元商店は廃業し、賑わいが無くなっただけでなく、買い物できる場所も無い。馴染みの神社を会場とし、気軽に集まれる場の提供により、安価での買い物、生活支援、高齢者サロンの役割も担い、更にこの場を通じて多世代交流の場に繋げたい。

⑦ 取組を行うにあたって、連携している(したことがある)組織・団体数をご回答いただき、それらの法人種別として該当するものをすべて選んで○を付けてください。

連携している(していた)組織・団体数	3団体
--------------------	-----

- | | |
|---------------------|------------|
| 1. 社会福祉法人(社協以外) | 9. 学校法人等 |
| 2. 社会福祉法人(社協) | 10. 自治体 |
| 3. 営利法人(株式会社・有限会社) | 11. その他の法人 |
| 4. 協同組合 | |
| 5. NPO 法人 | |
| 6. 社団・財団法人 | |
| 7. 医療法人 | |
| 8. 住民組織・ボランティア・町内会等 | |

⑧ 具体的な取組内容をご回答ください(写真や図を自由に用いて作成してください。その際、取組における地域住民の関わり方や、他の組織・団体との関わり方が具体的に伝わるようにしてください。 ※サービス提供にあたっての継続性や質の確保の工夫等もあればあわせてご記載ください。)

- ・毎週金曜日に介護予防運動を集会所で開催していたが、コロナ禍集会所利用が制限され活動が停滞気味に。世話人は、地域福祉に理解ある地区社会福祉協議会の女性委員。高齢者の多い地区で、孤立解消、不活動による虚弱を心配し、コロナ禍の中での集いの場づくりを検討。
- ・令和2年9月1日に活動をスタート。1日定例開催を現在は第1日曜日に変更し、多世代参加を見込む。
- ・出される 販売品は、地区民が無償で提供。売上金は地区活動へ充当され、相互支援が形成されている。
- ・価格は安価(主に50円 100円、高額なものでも500円程度)
- ・購入をしなくても、買い物の楽しさ、見る楽しみも。
- ・中には、裁縫が趣味の方の手作り品(洋服 バック)も。
- ・地元高校の農業科で育てた野菜・米・花も並ぶ。高校生の販路もコロナ禍で無く、蚤の市で販売代行(手数料は無し ボランティア)
- ・近場で新鮮野菜を購入できると、移動が困難な高齢者の買い物できる場となっている。
- ・水分程度だが、無料の喫茶もあり、手作りの漬物、菓子が提供されて、サロンの場の役割も担う。
- ・購入されずに売れ残りの品物は、無料配布コーナーに。年金で暮らす高齢者にとっては、大きな生活支援となっている。



⑨ 取組の評価を実施していますか。実施している場合は、具体的な内容をご回答ください。

取組評価の実施はないが、住民が主体となり、生活支援に繋がる模範的取組事業であると他地区住民も関心を寄せ、開催日には視察も兼ねて、集う場となっている。

⑩利用者(参加者)の生活状態・心身の状況や生きがい・社会的役割にどのような変化が見られているか、および利用者の日常生活の状況にどのような変化が見られているか、箇条書きで記載してください。

- ・事業立ち上げの女性リーダーは民生委員でもあり、日頃から、地域課題に目を向け、自治会や、地区社会福祉協議会活動にも積極的である。
- ・高齢化率が県内でも高い栗原市。市が推進している週一回の介護予防体操も自発的に市内でいち早く取り組み、定着してきた矢先のコロナ禍での活動休止に。形を変えて、この蚤の市という場づくりに繋げる。
- ・取り組みを、市社協、生活支援コーディネーターも関わり、資源の可視化、住民周知を支援。他地区からの来訪者も増え、メンバーの意欲向上に繋がる。
- ・フリーマーケットは、いたるところで見られるが、販売、購入だけの目的に捉われず、地域コミュニティの形成、高齢者の孤立解消、外出の機会提供、お茶のみサロン、傾聴、情報交換、地域課題の共有、更に、地元高校への支援活動、地元で大切に守られている神社の維持整備、何より、近場で歩いて行ける範囲に、気兼ねなく、安心して行ける、集う通いの場となっている。
- ・蚤の市は、すみなれた地域で暮らし続けるための生活支援そのものである。

⑪個別ケースを写真、図等を用いて自由に記載してください。



栗原元気アップ体操の様子
週一回集会所で実施



生活支援体制整備の推進と資源の可視化
取組事例の紹介で、他地区からも着目



蚤の市から広がる、地域の支え合い、
結束、相互支援、住民主体の生活支援に

